

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 中津商業高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年11月7日(火) 13:15～15:15
- 3 開催場所 中津商業高等学校会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者

会長	成瀬 博明	本校同窓会会長
副会長	保母 龍興	本校同窓会副会長
委員	児玉 光弘	地域住民代表、学識経験者
	李 瑾	中京学院大学准教授
	大瀧 國嘉	中津川市立第一中学校長(欠席)
	柴田 祐希	中津川市定住推進部市民協働課主査
	尾関 星香	中津川市教育委員会事務局幼児教育課主査
	久木 利道	トーキン工業(株) 相談役
	石黒 梨香	本校PTA会長
	名城 仁志	本校PTA副会長
オブザーバー	原 祐一	前校長
	森 益基	岐阜県議会議員(欠席)
学校側	丸山 裕	校長
	丹羽 静	教頭
	松村 勇一	事務長
	兼松 美穂	教務主任
	伊藤 則生	生徒指導部長
	坂本 美和	進路指導部長
	新井 秀行	保健安全部長
	丹羽 浩徳	渉外部長
	若尾 昌彦	商業教育部長
	勝野日菜子	記録

5 会議の概要(協議事項)

(1) 生徒研究発表 「DXでまちづくり～NakatsugaOne～」

(2) 授業参観及び施設見学

(3) 学校評価アンケート結果について

各分掌より質問項目の評価についての説明

各委員より意見

意見 1:進学率が上昇しているため、生徒へ上級学校の魅力を発信する取り組みをしてほしい。

意見 2:カリキュラムに進学対応の科目を入れることはできないか。

⇒ICT教材等の導入を検討中である。(学校の回答)

- 意見 3：生徒が海外に進出し活躍していかなければいけない。一般的かつ実践的な事を先生から生徒に教えてほしい。
- 意見 4：生徒の研究発表について、プレゼンテーションの方法が非常によく上がってきている。スライドのデザインやプレゼンテーションの仕方について、徐々に向上させてほしい。
- 意見 5：新しい時代へと変革し、生徒が多様化する中、いろいろな進路を見つけられるよう指導している。
- 意見 6：教育が学校だけで完結するのではなく、地域の人や企業も含めて本校を支えていきたい。
- 意見 7：地域内に活力のある学校があるという事は誇りに思う。
- 意見 8：教師は学校内での指導だけでなく、今後さらに学校と地域、他校種などとコーディネートに取り組んでほしい。
- 意見 9：これまでのように、ふるさと教育において、地元の企業と提携しながら学びを深めてほしい。
- 意見 10：この3、4年で社会が変わってきており、教師の教え方、生徒たちの学び方も変わってきているが、教師や生徒はよく対応できている。
- 意見 11：地域に外国人定住者が増えているため、外国語の学習に力を入れたほうがよい。
- 意見 12：中津川市として、高校生を主に対象とし、地元の魅力を伝え、いつかまた地元に戻ってきてもらえるよう取り組んでいるが、本校も同じ思いで生徒が活動しており、すばらしい。
- 意見 13：商業の実習ができる設備がよく整っている。
- 意見 14：生徒発表について、生徒が自分たちで考えて、自分の意見を持って発表できることがすばらしい。
- 意見 15：外部講師である企業の担当者が、生徒のことを「自分の教え子だ。」と嬉しそうに話していたことがとても印象的だった。
- 意見 16：経済を回す中で必ず反省が出てくるが、課題研究においてもその反省が活かされていたことはよかった。これからもこの反省を活かすという事を身につけていってほしい。
- 意見 17：生徒がICTを使いこなすことで日本、海外など、どんなところでも活躍できるという事を伝えてほしい。
- 意見 18：生徒の研究発表で紹介された、PR動画を作ってもらった企業側からは大変好評だったと聞いている。
- 意見 19：親の立場でも企業の立場でも、ディスカッションはとても大事である。
- 意見 20：外国語の学習以外にも、海外の文化に触れる機会があるとよい。
- 意見 21：若い教師が多く中堅の教師が少ないということだが、協力してうまくできている。PTAもできる限り協力したい。
- 意見 22：当初は資格取得に力が入っていたが、ここ3、4年で、創造的な発想を膨らませながら、地域に貢献できるような人材が育っている。

6 会議のまとめ

代表生徒による研究発表が大変好評だった。授業参観や施設見学により、生徒の現状や授業状況を把握してもらうことができた。多くの委員から、本校の教育について評価された。また、いろいろな立場から協力したいとの意見もあった。進学希望者が増えていることから、その対策が必要であることや、進学や就職してからも外国語は必要と考えられるため、英語力の向上や海外の文化を理解する機会を増やしていくことが必要である。今後も地域や地元企業と連携し、将来地元で活躍する人材を育成していく。